お店紹介 たぬき

高知県・足摺岬にあるチャイとコーヒーの店

店主のモクさんがマッサージもやります

→たぬきとモクさん。海がすぐ近い。

高知の足摺岬の先にオーガニックのコーヒーやチャイが飲めるかわいいお店「たぬき」がある。まわりにはバナナが繁り、季節には小さめの自家製バナナが食べられる。店主のモクさんはインドでマッサージを学んだ人で、口コミで拡がっているそうだ。

高知の幡多地区(黒潮町、四万十町、四万十市、宿毛市、三原村、大月町、土佐清水市）には移住者や若者が増え始め、お祭りも開かれている。魚も野菜も米も安く、マッサージと交換で物が来たりして、ゆっくりして余った時間を瞑想やダンス、フリーソング等に使っているという。

高知県 土佐清水市大谷 137
メール=amaramoku@softbank.jp

四国はお遍路文化の土地なので、お遍路さんが立ち寄ることもあるそうだが、東南アジアやインド、ネパールを旅したような人が主という。外人も多かったそうだが、今年はコロナの影響で激減したらしい。

現在 7 年目に入り、口伝えでチャイやコーヒーがネット経由で売れるようになっているとのこと。またマッサージも料金をどんどん安くしているので、あまり稼げないというが、のんびりマイペースで暮らしているようだ。

息子のスオウと暮らしている店主のモクさんはヒーラーでもあり、頭蓋骨仙骨療法をはじめ多彩なマッサージやボディワークをする人。出張治療や遠隔治療もやることがあるという。

また元来お祭り好きの体質のようで、山水人や虹の子まつり、風のまつり、パサール、アイヌモシリなどなど（去年のここから祭りにも）に出没し、ステージ前で踊っているかマッサージのお店を開いている。

店名のタヌキとはまた面白い名前だが、元々この店をやっていた初代、二代目の人が亡くなり、二年間放置されていたところにモクさんが話を聞いてやってきたそうだ。元々このあたりにはタヌキが多かったという説もあるとか。そしてお店の名前は正式には「cosmic country cafe たぬき」というものにしたそうだ。

最初は喫茶店メニューを考えていたが 人通りも極端に少なく、食べ物など腐ってはいけないと思い、チャイとコーヒーの店をやることにした。チャイは 4 年間のインド生活もあって得意だし、コーヒーは喫茶店でバーテンをやっていた経験からやはり得意だという。現在お店で出しているのはペルーのモンターニュベロニカと言う豆とフィリピン、ネグロスのマスコバド糖と言う砂糖を仕入れてるそうだ。

↑たぬきの廻りに自生しているバナナの花。小さいが美味しいバナナの実がなる。

ここでモクさん（高見修一／天楽もくさん）の職歴や人生遍歴も紹介しておこう。

1949 年 2 月生まれだが、7 ヶ月で生まれたので体重は 300 匁(約 1kg)だった。医者と産婆さんは諦めなさいと言ったらしいが、母親の篤い介護のおかげで生き延びる。そのせいで幼年期から鍼、灸、按摩に通い、小学生の時には按摩のお兄さんが友だち。そして 14 歳の時から見よう見まねでヒトに施術していたという。

子どもの頃に住んでいたのは、尼崎の神崎川と猪名川、藻川に挟まれた三角州にあった神崎新地という場所。そこは女郎屋が 40 軒ほどあり、土手横には 沖縄の人や朝鮮の人、奄美大島の人たちのコロニーがあるところだった。

中学はワンダーフォーゲル部、高校は山岳部で山登りが趣味となる。高校二年で北海道を一月半ヒッチハイク。夏休み等には北アルプスに。高校卒業すると写真家見習いで就職するも、半年で離職。お金がなければヒトはどうなるのか? 僕の土地はどこに有るのかという若者らしい疑問を胸に旅を始めた。

その途中、鹿児島の天文館通商店街にて桜島フェスティバルの準備に来ていた部族に遭遇、PON に「もく」と言う名前をもらい部族活動に参加。国分寺、入笠山、そして PON のいた奄美にもいたという。また関西を中心に南大阪でコミューンもどき「八分族」を実践。

22 歳にて彼女が妊娠したのを期に喫茶店に就職。32 歳で JAC 関西（無農薬有機野菜流通の会社）に参加。しかしすぐに 2 つに分裂したため、ポラン広場のメンバーとして設立に参加、7 年の活動の後、40 にして東南アジア、インドへと彼女と飛び立つ。

1 年間の北インド、ネパールの旅のあと、ゴアでビザが無くなりプーナへ。アシュラムの塀にもたれていると、目の前を八百屋時代に無農薬の生姜を出していた高知のサンニャシンに出会い、OSHO に会うことを薦められ、アシュラムに。これは中に入らないとわからないと思ってサンニャスを受け、12/24 に chetan amara と言う名前をもらった。いったんゴアに戻り荷物を取ってプーナに帰り、家を探しているとOSHO が逝ってしまった。一晩ガートにいて、朝、OSHO の横で彼女に帰ろうと言うと、彼女がポンポンとお腹を叩いた。妊娠だった。そこでサレンダーガーデンというインド人の庭にブラジル人が建てた小屋を手に入れ、インドで出産することに。アクティブバースと言う本を参考に自宅分娩を決行、女の子が誕生する 。

4 ヶ月でバリにビザをとりに、10 ヶ月で六ヶ所いのちのまつりに参加するために帰国。広島で友人の出産を手伝い、六ヶ所へ。そのあと 1 ヶ月間、女たちのキャンプに参加。その後、マッサージを習いたくてもう一度インドへ行く。

クラニオ、フットリフレクス、ホリスティックマッサージ、インド式マッサージなどを習得。これに瞑想、沖縄古流唐手の合気、力の発し方、瞑想、呼吸法、按摩等が混ざりあったのが、今やっている施術だそうだ。

1 年後に帰国し、四万十川源流の古刹願成寺の境内にある 400 年の枝垂れ桜の横に家を移築、新築。太陽光発電と山の水で暮らす。このとき天狗のまつりに参加。自宅でも毎年花まつりを開催。その後四国の有志にて褌学会を設立、これがヘンプギャザリングにてヒット(YouTube 褌学会参照)し、若者に褌ブームが広がることになる。

↑マッサージは天幕の下で。

その後、東津野村にて息子のスオウを出産。しかし 1 才半の時に癲癇を発症。MR 検査の結果、右脳欠損と判明。6 歳の時に初めて宇宙語をしゃべる 。このあと母親が娘と息子を連れて高知で喫茶店を始めるが軌道にのらず、僕が呼ばれマッサージの店を高知で開き、朝晩と子どもの通いお父ちゃんを 5 年続けた末、スオウが 6 年生の時に母親は娘をつれて大阪の実家へ。僕はスオウをつれて愛媛の友だちの空き家へ。1 年後、スオウを今治特別支援学校の寮に入れ、自分は平日働いて土日・休みはスオウと暮らすことになった。そしてスオウが卒業後どうしようかと迷っていた時に、足摺でたぬきという店が 2 年間放置されているという話を聞き、ここで喫茶店とマッサージをしてスオウと暮らそうと決意して、たぬきに入ったのだった。